



いのち支える

# いのち支える自殺対策推進センター ニュースレター 第40号 (2025.02.07)

いのち支える自殺対策推進センター（JSCP）のニュースレターにご登録いただき、ありがとうございます。本号では、2024年（令和6年）の年間自殺者数（暫定値）が厚生労働省から公表されたことや、石破茂首相と福岡資麿厚生労働大臣がJSCPとNPO法人自殺対策支援センターライフリンクを訪問し、自殺対策の現場を視察した際の様子、自殺未遂者ケア研修「一般救急版」の開催報告などをご紹介します。

※このメールは、本ニュースレターの配信をご希望された方や、当団体の活動を通して、ご連絡先を頂戴した方に送信しています。今後メールの受信をご希望されない方は、お手数をおかけしますが、[こちら](#)から配信停止手続きをお願いいたします。

## <ニュースレター第40号トピックス>

1. 【自殺対策】2024年年間自殺者数（暫定値）の公表について
  2. 【視察】石破茂首相と福岡資麿厚生労働大臣がJSCPを視察
  3. 【開催レポート】令和6年度自殺未遂者ケア研修「第2回 一般救急版」
  4. 【掲載報告】プレティーン（8～12歳）の自殺状況に関する研究論文を発表
  5. 【啓発】3月の自殺対策強化月間に活用できる啓発コンテンツ
  6. 【掲載情報】映像・舞台関係者向け勉強会レポートを掲載
  7. 【関連情報】日本自殺総合対策学会の参加申し込みを受付中
1. 【自殺対策】2024年年間自殺者数（暫定値）の公表について

2024年（令和6年）の年間自殺者数（暫定値）が厚生労働省より公表されました。同年1月から12月の累計自殺者数は2万268人で、前年（確定値）よりも1,569人減少し、1978年の自殺統計開始後、2番目に少ないものとなりました（過去最少は2019年の2万169人）。男女別にみると、男性は1万3,763人（前年比1,099人減）、女性は6,505人（前年比470人減）です。また、年代別では20歳未満から80歳超まで、すべての年代で減少。職業別でも、有職者と主婦・主夫、失業者と年金・雇用保険等生活者など、学生・生徒等を除くすべての属性で自殺者数が減少しています。

ただし、近年、増加傾向が懸念されている小中高生（児童・生徒）は527人で、一昨年（2023年）の514人を上回り、過去最多となりました。平均すると毎週10人以上が亡くなっていることになり、非常事態が続いているといわざるをえません。

特に中高生女子の増加が顕著で（中学生女子／80人から99人に19人増、高校生女子／166人から183人に17人増）、なかでも「定時制・通信制」女子高校生の自殺者数が約23%（15人）増加。2022年からは72%（34人）の大幅な増加となっています。

■厚生労働省の資料は[こちら](#)

## 2. 【視察】石破茂首相と福岡資麿厚生労働大臣がJSCPを視察

2025年1月21日、石破茂首相と福岡資麿厚生労働大臣が、JSCPとNPO法人自殺対策支援センター ライフリンクを訪問し、自殺対策の現場を視察しました。  
国内では、こども・若者の自殺者数の増加が深刻であり、対策の強化が急務となっています。石破首相と福岡厚労相は、まずライフリンクでSNSによる相談事業の様子を視察し、生きるのがしんどいこどもや若者のためのWeb空間「[かくれてしまえばいいのです](#)」を実際に体験しました。

その後、JSCPで代表理事の清水康之らと会談。清水からは、JSCPが全国の自治体に提供している自殺実態プロフィールや地域（自治体など）への支援などについてご説明し、「[こどもの自殺対策緊急強化プラン](#)」に盛り込まれている「1人1台端末の活用による自殺リスクの把握」のためのツールである「RAMPS」を実際に体験していただきました。

視察終了後、石破首相は記者団の取材に対し、「こどもたちの自殺が増えていることは、非常に大きな課題。生成AIなどの新しい技術と組み合わせ、誰かに話を聞いてほしいと思う人たちの気持ちに応えられることが分かった。学校での1人1台端末の活用により、どこからでも相談ができるような体制を充実させるため、『人命救助』という観点に立ち、政府として今後取り組むべきことはたくさんあると思っている」などと述べました。



JSCP代表理事の清水康之(右)より、「RAMPS」の使い方について説明を受ける石破茂首相(中央)と福岡資麿厚生労働大臣(左)=JSCP事務所で

■詳細は[こちら](#)からご覧ください

## 3. 【開催レポート】令和6年度 自殺未遂者ケア研修「第2回 一般救急版」を開催

JSCPは2025年1月19日、「令和6年度 自殺未遂者ケア研修『第2回 一般救急版』」を都内で開催しました（主催：JSCP、共催：日本臨床救急医学会・日本精神科救急学会）。研修には事前のe-learning形式を導入。受講者は事前にオンラインで講義を受けたうえ、当日に対面での多職種ワークショップに参加していただきました。

研修の対象は救急医療に従事する医師、看護師、ソーシャルワーカー、救急救命士、保健師ほか地域救急医療や地域精神保健福祉に関わる人で、約50人が参加。8グループに分かれて、具体的な症例をテーマにディスカッションしました。研修後のアンケートでは、「講義は分かりやすく、ワークショップもとても参考になった」「場の雰囲気も良く、緊張せずに学ぶことができた」「講師・ファシリテーターの皆さんの自殺未遂者支援への熱い思い、普及への本気度を感じさせられた」などの評価コメントをいただいています。

今後の「自殺未遂者ケア研修」の予定等は[こちら](#)をご確認ください。



ワークショップではグループに分かれてディスカッションした

■レポートの詳細は[こちら](#)からご覧ください

#### 4. 【掲載報告】プレティーン（8～12歳）の自殺状況に関する研究論文を発表

JSCPの研究グループによる日本のプレティーン（8～12歳）の自殺状況に関する調査研究論文（“[Characteristics of Preeteen Suicide in Japan](#)”）が、米国の医学雑誌「JAMA Network Open」（2025年1月22日：米国東部標準時）に掲載されました。論文では、2009年から2023年までの期間に、この年代のこどもの自殺が増加しており、特に12歳の自殺死亡率が高いこと、女子の増加傾向がより顕著であること、時期としては4～6月が有意に増加したことなどを明らかにしています。

この分析は、米国からの同様の報告（[JAMA Netw Open. 2024;7\(7\):e2424664](#)）を参考に、警察庁の自殺統計のデータを基に行ったもので、分析対象期間における、日本の8～12歳のこどもの自殺死亡者数は283人でした。対象期間の前期（2009～2015年）と後期（2016～2023年）の自殺死亡率を比べると、後期に42%の増加が見られ、特に女子は98%増と顕著に示されています。四半期別の比較では、7～9月がもっとも自殺死亡率が高く、この傾向は対象期間の前期と後期にかかわらず一貫していました。一方で4～6月は、前期に比べて後期に93%増加しています。

この結果は、児童を含むこどもの自殺の実態解明や自殺対策の強化が急務であることを再認識させるものといえます。

■詳細は[こちら](#)をご覧ください

■論文はこちら（[JAMA Network Open 内](#)）に掲載されています

#### 5. 【啓発】3月の自殺対策強化月間に活用できる啓発コンテンツ

3月は自殺対策基本法に定められた自殺対策強化月間です。自殺総合対策大綱では、国、地方自治体、関係団体、民間団体等が連携して、「いのち支える自殺対策」という理念のもと、啓発活動を推進するとされています。

JSCPでは、自殺対策強化月間で活用いただける、下記の啓発動画やWebサイト、ポスターなどを作成しています。いずれもJSCPが著作権を一括して管理しており、紙媒体への掲載、放送、公共施設での放映、ネット媒体やSNSへの掲載などに幅広くご利用いただけるものです。これまでも多くのメディアや自治体の媒体等に掲載され、反響をいただきました。ぜひ、お問い合わせ・ご活用ください。

- ①【こども・若者】「#逃げ活～こころの逃げ場、ここにあるよ～」ツールキット
- ②【こども・若者】「いのち支える動画コンテスト2023」30秒動画・優秀賞4作品
- ③【こども・若者】「保護者のための#chatsafe（チャットセーフ）」ダイジェスト版等
- ④セルフケアのためのWebサイト「こころのオンライン避難所」
- ⑤中高年男性の自殺対策のための啓発コンテンツ
- ⑥関連動画「Step Closer」～アクションを通じて希望を生み出す～

■上記コンテンツは[こちらのページ](#)からダウンロードできます

## 6. 【掲載情報】映像・舞台関係者向け勉強会の開催レポートを掲載

第38号（2024年12月5日発行）でも簡単に紹介した、「『自殺の表現』に関する映像・舞台関係者向け勉強会～自殺や自傷に関連する企画・制作・表現を行う際に知っておきたいこと～」（2024年11月8日開催）の詳細な開催レポートを、JSCPのホームページに掲載しました。自殺や自傷を描く作品の企画・制作に際してどのような課題や留意点があるのか、実際に自殺・自傷を描いたドラマ制作に携わってきたゲストを迎え、具体的な事例を踏まえながら議論した、とても密度の濃い勉強会です。ぜひご覧ください。

■レポートの詳細は[こちら](#)からご覧ください

## 7. 【関連情報】日本自殺総合対策学会「第4回大会～『孤独・孤立』を考える～」の参加申し込み受付中

日本自殺総合対策学会は、2025年3月11日（火）に「第4回大会～『孤独・孤立』を考える～」をオンラインで開催します（共催：情報・システム研究機構 統計数理研究所 医療健康データ科学研究センター（予定）、後援：厚生労働省・JSCP）。

日本自殺総合対策学会では、自殺対策の現場の声に伝えるために、昨年度から自治体や支援団体の取り組みを紹介し、その困りごとを共有して解決に資する議論を行う、政策研究会・講演会・大会セッションを展開しています。これまで、個人情報活用の方法、孤独・孤立につながる家族のネガティブな側面への対応を取り上げてきました。現場の知と多様な専門家の知とをつなぎ現場の活動を少しでも改善することに資する活動を展開しています。

今回の第4回大会では、「孤独・孤立を考える」をテーマに、若者の自殺リスクを高める「孤独・孤立」について、その対策の現場の知を紹介するセッションとこれにかかわる実践的な研究の知を紹介する2つのセッションを企画しました。

第Iセッション：子ども・若者の「孤独・孤立」を現場から考える

第IIセッション：「孤独・孤立」対策に取り組む実践的研究

詳細および参加申し込みの方法については、日本自殺総合対策学会の案内ページをご確認ください。学会員のほか、自殺対策に関心のあるすべての方にご参加いただけます（参加費は無料）。申込期限は2025年3月4日（火）です。

■レポートの詳細は[こちら](#)からご覧ください

■YouTubeの「JSCP\_広報室」チャンネルで、研修動画等を順次公開中

<https://www.youtube.com/channel/UCNWP2O5zTuul-j8GITeKzHQ>

■Yahoo!ニュースエキスパートで、JSCPとして自殺問題・自殺対策に関する記事を配信しています  
(JSCP広報室長・山寺が執筆)

<https://news.yahoo.co.jp/expert/authors/yamaderakaoru>

※ニュースレターは英語版でも配信しています (Newsletter English edition)

<https://jscp.or.jp/english/newsletter/>

今後も、JSCPをどうぞよろしくお願ひいたします。

なお、配信停止をご希望の場合には、以下のページから、お手続きをお願いいたします。

<https://jscp.or.jp/newsletter/>

厚生労働大臣指定法人・一般社団法人いのち支える自殺対策推進センター (JSCP)

広報室 [news@jscp.or.jp](mailto:news@jscp.or.jp)



<https://www.facebook.com/JSCP.press>



[https://twitter.com/JSCP\\_press](https://twitter.com/JSCP_press)

[https://twitter.com/JSCP\\_www](https://twitter.com/JSCP_www)